

日本共産党10議席

野党一本化 62選挙区で勝利

総選挙の結果について日本共産党志位和夫委員長の記者会見の一部の要旨を掲載します。

会見で志位委員長は、支持をして頂いた全国の有権者、支持者、後援会員、党員の方々へのお礼を述べて、野党共闘と党議席について次のように述べました。

野党共闘の効果について

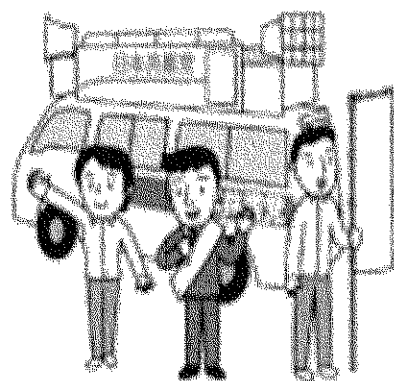
党は「野党共闘で政権交代を始めよう」と訴えたが、自公政権の継続となり残念である。この闘いは最初のチャレンジとして、大きな歴史的意義があったと確信できる。共闘は共通政策、政権協力の合意、選挙協力の3点セットで戦って一定の成果を上げたことは間違いない。全国62の選挙区で野党の一本化をした選挙区で激戦に競り勝ち、自民党の重鎮や有力候補落選させることができたと思えます。

野党共闘の課題と今後

同時に野党共闘は、今後に課題も残した。特に野党が力を合わせ共通政策、政権協力の合意という共闘の大義、共闘の魅力を様々な野党共闘への攻撃を打ち破って、広く国民に伝えきるといふ点で不十分であった。それが維新の会の伸長ということにつながった。日本の政治を変えるためには共闘しかない。共闘の発展のために他の野党や市民連合ともよく話し合い、教訓を引き出し市民と野党の共闘を発展させるために、引き続き全力を上げると述べました。

党議席の2減は力不足

日本共産党は小選挙区沖縄1区で赤嶺政賢候補が激戦を制



して当選することができ「オール沖縄」の底力を発揮した。比例代表で11議席から9議席に後退したことは、大変残念なことでも力不足を痛感している。引き続き党の自力と世代的継承の取組を成功させ、捲土重来を期したいと決意を述べました。

なお九州沖縄比例では、田村貴昭候補が3期目の当選となりました。田村氏は、小野、大鶴、天ヶ瀬などの災害現場に足を運び、また日田彦山線の災害復旧に住民や党市議団と共に取り組んできました。

選挙の結果について党の声明は「しんぶん赤旗」に掲載されていますのでご覧ください。また党大分県委員会の声明は、この「明るいい日田」紙の裏面に記載しています

野党共闘の成果と課題

機器購入で検査能力の向上と早い陽・陰性の判明

5日に臨時議会が開催されます。議案は補正予算と令和2年度の決算認定です。補正の内容は2件で、新型コロナウイルス感染症対策としてPCR検査機器購入費助成と医療従事者等の3回目のワクチン接種の予算です。

補正予算の総額は2件で1617万1千円です。

感染症予防対策事業

補正額398万8千円で一般財源からの補助。新型コロナウイルス感染症の感染の感染確認を迅速に行なうため、済生会日田病院が導入するPCR検査機器の購入費用について補助を行なうものです。済生会は昨年機器を導入していましたが、

新たに新型の機器を導入します。一日に最大で20検体の陽性・陰性の検査を行なうことが出来、昨年の機器と合わせて約40検体を検査できる能力となります。新型コロナウイルスの心配のある患者が医療機関に行つて検体を取り、保健所と連携のもと済生会でPCR検査することが出来ます。これまでは大分市や市外の検査機関に

委託していたため、時間がかかっていましたが、検査能力が向上し早く結果が判明します。

新型コロナウイルス接種事業

補正額は1218万3千円。全額国の補助です。新型コロナウイルスの追加接種(3回目)を実施するため、2回目接種からおおむね8ヶ月以上経過する医療従事者等のワクチン接種にかかる費用を追加するものです。接種券発送とワクチン接種医師委託料となっています。



補正予算と決算認定で臨時議会